

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぶっちいさらだ（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16 (回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 2月 1日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所では子ども達が楽しくをモットーに、遊びや活動プログラムを通して、それぞれの子どもに必要な刺激や学びから日常生活における成長や変化を職員・保護者等と共有する。	定期的な面談やモニタリングの機会に加え、活動の様子や子どもの様子が共有できるように日々の送迎時などに様子を伝達共有を行ったり、写真等も用いて活動の様子を定期的に保護者へ共有している。	個人情報の取り扱いなどへの留意の課題はあるが、LINE・SNSなど保護者の方に合わせて伝えやすい（伝わりやすい）手法なども検討していければと考える。
2	事業所（法人）として、子どもの学年や状況によって利用の振分け（小学生高学年）を行っているため、安全性・成長段階に応じた活動などを提供しやすくなっている。	子どもたちが全力で活動した際に、身体の大小などで事故が起きにくいための配慮となり結果、活動が安全に行えている。また、年齢がある程度まとまっている事で遊び方やコミュニケーションの回り方も子ども同士共通する点も広がり、有効に行えている。	成長や各人の課題等に応じて、事業所内だけの関わり・刺激の機会のみでなく、各人の地域（周囲）でも関わりが広がる機会を検討していければと考える。（必ずしも放デイではなく、地域で過ごせる機会、学童保育、児童館など）
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用される児童（家庭）のニーズが複雑化しているケースも多く、事業所としてニーズに対し十分な（柔軟な）対応が取れていない。	不登校児童や必要性はあるが利用が安定しない児童など、事業所に来てくれて活動や対応する機会と異なる児童への継続的・効果的な支援や関わりが確立できていない。	支援・関わりに関しては事業所だけで考えるのではなく、その他の関係機関とも連携し必要に応じて役割分担等を回り重複的に支援体制を構築する必要がある。
2	事業所からの様々な発信力が弱い。（発信の機会、頻度、など）	保護者等への発信や共有も個別の機会がほとんどで、情報が個別的で頻度も少ない傾向にある。	今年度に設けた保護者会など、事によっては広くスピーディーに発信できる機会・あり方を検討して行ければと考える。
3			